

ゴルフ上達の極意（第7回）

「パッティング（傾斜しているグリーン）」

川久保 新一

前回は、傾斜していないグリーンでのパッティングについて説明しました。

アドレスで、パターのフェースをスクエアに構えましょう。目の真下から左右30cmの領域で、フェースの中心の軌跡が直線になるように素振りしましょう。パターの振り幅を変えて、転がり距離を制御する場合、3歩先、5歩先、10歩先まで転がす場合の振り幅を自分なりに決めましょう。

今回は、傾斜しているグリーンのパッティングについて考えてみます。

ボールの転がり距離は、ボールを叩く強さに応じて変化し、また、高いところから低いところに転がります。さらに、転がるときの抵抗が多ければ、減速し、抵抗が少ない方向に曲がります。この自然法則を考慮し、適切に対応すれば、傾斜グリーンでもパット数は少なくなることでしょう。

傾斜グリーンでパッティングするときに、傾斜の下から真っ直ぐに狙って打ったり、傾斜の上から真っ直ぐに狙って打ったり、または、傾斜の横から打つこともあります。以下では、これらのパッティングのそれぞれについて、順次説明します。

傾斜しているグリーンのパッティングは、考えれば考えるほど、悩みが多くなるものですが、曲がる要素と転がり速度を慎重に分析すれば、大きな失敗を減らすことができます。

1. 上り（のぼり）グリーンで打つ場合

上りグリーンとは、ボールの現在位置よりもカップの位置が高い場合を言います。

（1）上りグリーンで打つ場合、ボールの速さが遅くなります。

・上りグリーンでは、高い位置にあるカップに向かって打つのですから、ボールの転がる速さは、平らな場合よりも遅くなり、到達距離も短くなります。

・この当たり前のことが、いざグリーンの上に立つと、初心者に限らず、忘れてしまい、カップに届かないショートとなり、後悔することがあります。

・状況を冷静に判断し、対応しましょう。

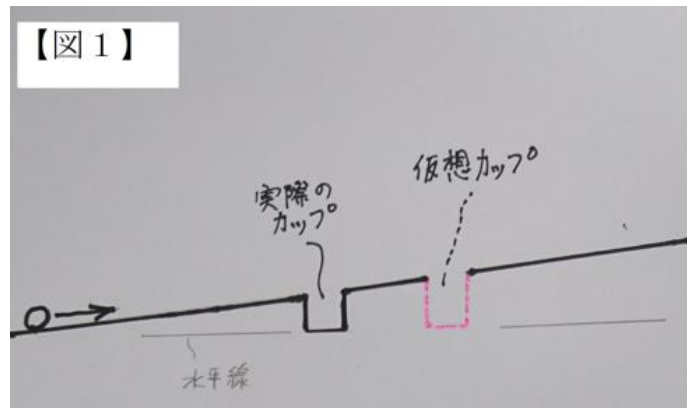
（2）現実のカップとは別に、仮想カップを、遠くに設定しましょう。

・現実のカップの位置よりも遠い位置に頭の中で仮想カップを設定し、その仮想カップに届く強さで打ちましょう。

・グリーンの傾斜の度合いに応じて、実際のカップ位置よりも、たとえば、50 cm先や1m先などに、仮想カップを設定します。

図1では、上りグリーンで打つ場合において、実際のカップを黒の実線で、仮想カップを赤の破線で示しています。

・平らなグリーンなら、この位の強さ（ふり幅）でボールを転がすと考えた場合、上りだとボールの転がり



り距離が短くなることを考慮して、その分だけ遠くにカップ位置を想定します（仮想カップを想定します）。

・仮想カップをイメージするのは、パッティングして、ボールがカップに届かないことを防止するための便法です。

・仮想カップの位置の設定精度は、経験によって変わります。なるべく多種類の傾斜度合いについて、ボールの転がりを観察し、上りグリーンでボールの転がりが遅くなることを実感しましょう。

・同伴プレーヤーがパッティングしたときのボールの転がりの速さは、とても参考になります。

・現在の上り斜面で、同伴競技者がボールを転がしたら、「少しだけ遅い」、「中くらいに遅い」、「とても遅い」の3段階程度に、大まかに分類してみましょう。

・判断した転がりの遅い程度に応じて、仮想カップのおおよその位置を決めましょう。

・傾斜の無いグリーンで打つ距離に対して、上り傾斜のグリーンでは、現実のカップ位置までのたとえば2割増し程度の距離を打つ（振り幅にする）と決め、その振り幅で打ってみましょう。

・最初のうちは、振り幅の変更に慣れずに、体が硬くなって、ショートする（カップまで届かない）でしょうが、カップまでの距離が少しずつ短くなるように振り幅を調整しましょう。

2. 下り（くだり）グリーンで打つ場合

下りグリーンは、ボールの現在位置よりもカップの位置が低い場合を言います。

・下りグリーンで打つ場合、仮想カップの位置を、現実のカップ位置よりも、近くに設定し、その仮想カップに入る強さ（ふり幅）で打ちましょう。

図2では、下りグリーンで打つ場合において、実際のカップを黒の実線、仮想カップを赤の破線で示しています。

・下りグリーンで仮想カップを設定するのは、パッティングして、カップを外

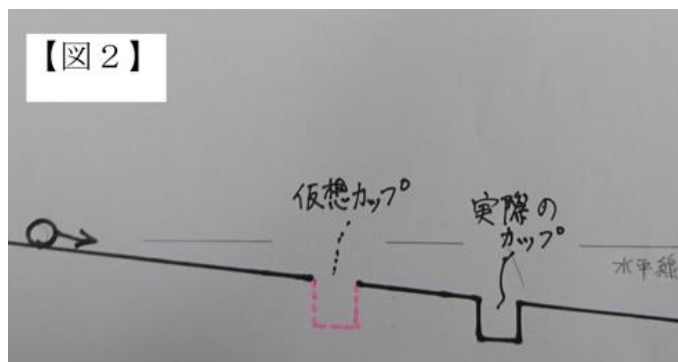
しても、ボールがカップから遠くまで転がらず、カップの近くで止まるようにするためです。

・カップに入りそうだが、ボールの勢いが強すぎて、カップの縁をクルッと舐めて入らないことを防止するためです。

・同伴プレーヤーがパッティングしたときにボールの転がりの速さを観察することは、下りグリーンでも、とても参考になります。同伴プレーヤーが下りグリーンでパッティングしたときに、ボールの転がりが、傾斜の無い平らなグリーンに対して「少しだけ速い」、「中くらいに速い」、「とても速い」の3段階程度に、大まかに分類してみましょう。

・判断した転がりの速さに応じて、仮想カップのおおよその位置を決めましょう。

・傾斜の無いグリーンなら、例として、現実のカップ位置までの8割程度の距離を打つ（振り幅にする）と決め、その振り幅で打ってみましょう。

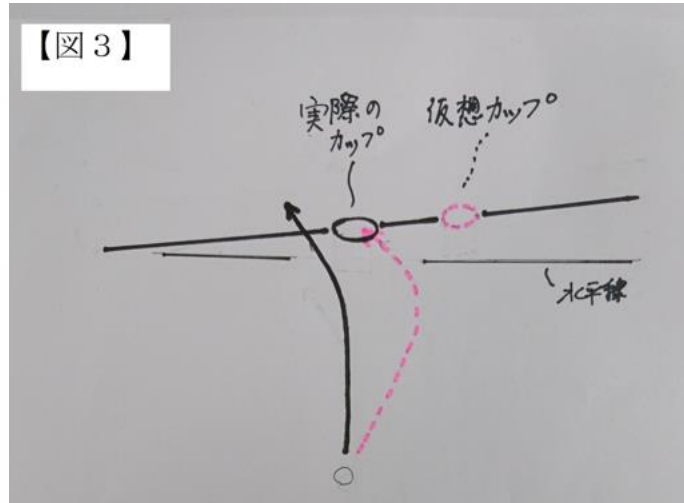


3. 左下がりのグリーンで打つ場合

(1) 左下りのグリーンで打つ場合、曲がり方を考慮し、打ち出し方向や打つ強さを決めましょう。

図3では、左下がりのグリーンで打つ場合に、実際のカップを黒の実線で、仮想カップを赤の破線で示しています。

・左下りのグリーンでは、打ったボールが左に曲がるので、曲がり方を考慮し、実際のカップの右、すなわち、傾斜の上側に、仮想カップの位置を設定し、仮想カップに向かって打ちましょう。



・左下がりのグリーンでは、実際のカップよりも、カップ1個分や2個分、右に移動した位置に仮想カップを設定し、この仮想カップに向かって、パッティングしましょう。

・傾斜の横からパッティングする場合、何cmズレる（切れる）と考えずに、カップの半分とか、カップ何個分、切れると判断します。

・左下りのグリーンでボールを打つ場合、ボールがカップに届く強さでボールを打ち、かつ、傾斜による曲がり方を考慮した方向に仮想カップを設定し、その方向に打ち出します。

・このようにボールを打つと、たとえカップに入らなくても、ボールがカップの近くに止まるので、返しのパッティングが楽であるという利点がある一方、打ち出しの方向決めが難しいという欠点があります。

・ボールがカップにちょうど届く強さでボールを打つ場合、左下りグリーンで左にとっても大きく曲がりそうなら、たとえばカップ2個分、右に仮想カップの位置を設定します。カップ2個分ほど大きくは曲がらず、左にそれなりに曲がりそうなら、たとえばカップ1個分、右に仮想カップを設定します。左に微妙に曲がりそうなら、たとえばカップ半個分、右に仮想カップを設定して、つまり現実のカップの右端を狙って打ちます。

・ここで注意する点は、左下りのグリーンでボールを打つ場合、平らなグリーンで打つ場合よりも多少強めに打つ必要があります。つまり、仮想カップの位置を実際のカップの位置よりも、傾斜の上側に設定しますので、先に説明した上りのグリーンで打つ場合と同様に、平らなグリーンで打つ場合よりもボー

ルの転がりが減少するからです。

・このことは、後ほど説明する右下がりのグリーンで打つ場合も、同様ですので、覚えておいて下さい。

(2) 上記とは別の打ち方もあります。

・別の打ち方は、傾斜の影響を受けてボールが曲がる前にボールをカップに入れるために、強く打つ打ち方です。

・この方法は、カップまでの距離が 50 cm以内である場合に打つ打ち方であり、傾斜に影響されないように少し強めに打ちます。

・この打ち方は、方向決めが容易です。カップに入らなければ、強めに打っている分、カップからかなり離れた位置までボールが転がるので、返しのパッティングが苦しくなるという欠点があります。

・ですので、この方法は、カップまでの距離が 50 cm以上の場合は、リスクが大きいため採用しない方が無難です。

・その時の状況やあなたの精神状態等に応じて、ボールがカップにちょうど届く強さでボールを打つか、カップの中央に向かってボールを強く打つかを決めましょう。

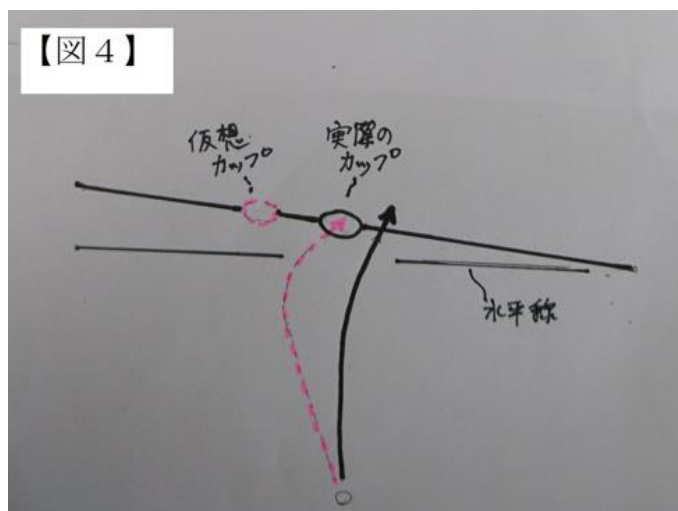
・これら2つの打ち方の中間の打ち方は有りません。中途半端な判断は、良い結果を生みません。

4. 右下がりのグリーンで打つ場合

(1) 右下がりのグリーンで打つ場合、右に曲がることを考慮して、打ち出し方向や打つ強さを決めましょう。

図4では、右下がりのグリーンで打つ場合に、実際のカップを黒の実線で、仮想カップを赤の破線で示しています。

・右下りのグリーンでは、打ったボールが右に曲がるので、現実のカップ位置の左に、すなわち、傾斜の上側に、仮想カップの位置を設定し、仮想カップに向かって打ちましょう。



・つまり、右下がりのグリーンでは、実際のカップよりも、カップ1個分や2個分、左に移動した位置に仮想カップを設定し、この仮想カップに向かって、パッティングしましょう。

(2) 右下がりのグリーンで打つ場合も、傾斜による曲がりやを考慮して、仮想カップの位置を設定し、ボールがカップにちょうど届く強さで打つ打ち方にするか、傾斜の影響を受けてボールが曲がる前にボールをカップに入れる打ち方にするかを決めて打ちましょう。

5. グリーンの傾斜方向や傾斜量を把握する方法

(1) グリーンに近付いたら。

・グリーンの外から、グリーン全体が、左右のどちらに傾いているかを見ましょう。

・グリーン全体の傾斜を見ると、傾斜に関して大きな間違いが少なくなります。

・グリーンに上がってからは、ピンまでの傾きも確認しましょう。

(2) ボール位置から見る。

・ボール位置からカップ方向を見て、傾斜方向、傾斜量を見ましょう。

・グリーンの傾斜の確認に時間を掛けすぎると、スロープレイになり、同伴競技者のみならず、後続のプレイヤーにも迷惑となりますので、注意しましょう。

・グリーンの傾斜は、自分がグリーンに近寄りながら確認したり、同伴競技者がプレイしている途中で、その人のプレイの邪魔にならないように確認するのがマナーです。

(3) カップの向こう側（カップから見て、ボール位置と反対側）から見る。

・カップの手前から、右下がりか左下がりかの傾斜方向、傾斜量を観察することは勿論、カップの向こう側からも、右下がり、左下がりかの傾斜方向、傾斜量を観察しましょう。

・錯覚で、実際の傾斜とは逆の傾斜に見えることがあります。この錯覚を防ぐために、カップの反対側からも、傾斜方向を観察しましょう。

・反対側からは、予想以上に傾斜があるように見える場合があります。カップ手前から見ると下り斜面に見えたにもかかわらず、反対側から見たら、上り斜面に見える場合があります。

・カップ手前から見た傾斜方向と、カップの向こう側から見た傾斜方向が逆である場合は、曲がり無しと判断して、真っ直ぐに打ちましょう。

(4) カップの真横からカップの縁を見る。

・カップを真横から見て、カップの左端が、右端よりも下がって見えたら、左端方向に下がっています。

・カップの右端が、左端よりも下がって見えたら、右端方向に下がっています。

(5) カップとボールとの中間位置で見る。

・カップとボールとの中間位置で観察すると、傾斜方向、傾斜量を判断し易いという人もいます。

(6) ボールとカップとの間に、凸凹がある場合

・ボールとカップとの間に、右傾斜部分と、左傾斜部分とがある場合には、全体的には、傾斜が無いと判断しましょう。

・たとえば左下がり支配的なら、全体的には、「やや左下がり」であると判断しましょう。

6. 傾斜以外に、ボールが曲がる原因

(1) 芝目

・芝目がきついと、平らなグリーンでもボールが曲がります。芝の種類によっては、信じられない位に大きく曲がります。

・芝目がある場合には、曲がる方向をキャディーさんに、その都度聞いてみましょう。

・キャディーさんを味方に付けるのは、スコアアップの重要な要因です。

(2) プレー時刻

・プレー時刻で、ボールの転がり速度、曲がり具合が変わります。

・午後になると、芝が伸びているので、ボールの転がり速度が低下し、曲がり具合も大きくなります。

(3) 雨の影響

・雨が降り始めたり、雨が降っていると、ボールの回転にブレーキがかかり、遅くなります。

・雨が上がると、雨が降っている場合に比べて、ボールが随分速くなったと

感じます。

7. 芝目の見分け方等

(1) グリーンの色で順目、逆目を見分けましょう。

・グリーンの上に立ってピン方向を見た場合、グリーンが白っぽく見えると、ピン方向に順目であり、ピン方向に向かって、ボールの転がりが速いです。

・白っぽく見えるのは、芝の表（おもて）面が見えるためであり、芝の葉っぱがピンに向かっていているので、順目であり、芝の葉っぱの表面でボールが転がりやすくなります。

・ピンを見た場合、逆に黒っぽく（緑が濃く）見えると、逆目であり、ボールの転がりが遅いです。

・黒っぽく見えるのは、芝の裏面が見えるためであり、芝の葉っぱがプレーヤーに向かっていているので、逆目であり、ボールの転がりの抵抗が強い場合です。

・芝目が、よく分からなければ、キャディーさんに聞くことが一番です。

(2) 近くの大きな山を見て、順目、逆目を見分けましょう。

・近くに大きな山がある場合、その山の頂上から裾に向かう（自分がいる位置に向かう）方向に、順目であり、ボールの転がりが速いです。

(3) 水場を見て、順目、逆目を見分けましょう。

・池に向かって、川に向かって、順目であり、池、川の方にボールが速く転がります。

(4) 芝の種類で、ボールの速さや曲がりが変わります。

・ベント芝は、ボールの転がり速度が比較的速く、カップ周りではボールの曲がりが少ないです。

・コーライ芝は、ボールの転がり速度が比較的遅く、カップ近辺での曲がり量が大きいです。

・コーライ芝では、カップに届くように、少し強めに打ちましょう。カップ周りでカップに嫌われないように（カップから離れる方向に転がらないように）、しっかり打ちましょう。

(5) スタート前に、練習グリーンで、ボールの転がりの速さ、曲がり具合を試してみましょう。

・場合によっては、練習グリーンと本グリーンとで、ボールの転がりの速さ

や曲がり異なることがあるので、注意しましょう。

8. 同伴プレーヤーのパッティングを穴があくほど、凝視しましょう。

(1) 同伴プレーヤーのボール位置が、自分のボール位置の真後ろである場合。
・この場合には、同伴プレーヤーが打ったボールの転がりの速さ、曲がる方向、曲がる程度だけを見れば、他の情報は必要ありません。

(2) 同伴プレーヤーのボール位置が、自分のボール位置の真後ろ以外の位置である場合。

上記した「5. グリーンの傾斜方向、傾斜量を把握する方法」、「6. 傾斜以外に、ボールが曲がる理由」、「7. 芝目の見分け方等」等について、よく吟味しましょう。

9. キャディーさんに、ボールの速さとボールの曲がりを聞きましょう。

(1) どちらの方向に、どの程度曲がるかを自分では判断できない時や確認したい時に、キャディーさんに参考意見を聞きましょう。

・同伴プレーヤーに、ボールの速さやボールの曲がりを聞くのはルール違反です。

(2) キャディーさんに質問した結果、「ほとんど曲がらない」とか、「曲がりが少ない」と回答された場合

・「曲がるとすれば、どちらに曲がるか」を聞きましょう。

・聞いた曲がる方向が、自分の考えと同じなら、自信を持って打ちましょう。

10. グリーンでの留意点

(1) カップ周りの30cm位の範囲を靴で踏まないようにしましょう。

・カップインしたボールを取り出す場合は勿論、グリーンの芝の状況を見る(読む)場合やパッティングする場合に、カップ周りの30cm位の範囲を靴で踏まないようにしましょう。

・カップ周りの芝を踏むと、カップ周りでボールの転がりが微妙に変わり、他のプレイヤーに迷惑を掛けることがあるためです。

・ゴルフでは、他のプレイヤーに迷惑をかけないようにプレイすることは、マナー上、極めて重要です。

- (2) 靴を引きずって歩かないようにしましょう。
- ・ひっかき傷ができます。これもマナー違反です。
 - ・他人が作ったひっかき傷や靴底痕を修復できます。ルールが変わりました。

- (3) パッティングが終わった場合。
- ・グリーン上を走らないようにしましょう。グリーン上で小躍りすることも、禁物です。グリーンを痛めます。

- (4) グリーンを出てから、スコアカードに記入しましょう。
- ・パッティングが終わって、スコアカードに記入する場合、グリーン上で記入すると、歩く速度が遅くなり、後の組に迷惑が掛かります。
 - ・場合によっては、気の早い後ろの組の打球が飛んで来ます。

- (5) 自分が作ったボールマーク（ボールがグリーンに落ちたときにボールが作ったグリーン上のへこみ）を修復しましょう。
- ・他人が作ったボールマークも、気がついたら修復しましょう。
 - ・スパイク傷、他の原因によるグリーンへの傷も、気が付いたら修復しましょう。

- (6) 同伴プレイヤーのパッティングライン（ボールとカップとを結んだ直線）を踏まないようにしましょう。
- ・同伴プレイヤーがパッティングするときに、同伴プレイヤーのボールとカップを結んだ線の延長線上に立たないようにしましょう。
 - ・パッティングの邪魔になると感じる人がいます。これはマナーです。

1 1. 前回（第6回）の写真について、少し訂正します。

- ・前回の写真2以降では、パターの構え方がハンドレート（グリップの位置がボールの位置よりも後側にある構え方）になっています。
- ・実際に打つ場合にはハンドファースト（グリップの位置がボールの位置よりも前側にある構え方）にした方が良いでしょう。
- ・前回の写真2以降ではオープンスタンス（左足を少し後に引いている構え）になっています。スクエアスタンス（両足のつま先を結んだ線がパターの打ち出す方向と平行の構え）が基本です。
- ・オープンスタンスは、打つ瞬間にボールの打ち出し方向を確認し易いとい

う利点があります。

・今回の参考写真は、ハンドファーストでかつスクエアスタンスになっている写真です。

・今回の参考写真では、スクエアスタンスであることを分かり易くするために、両つま先を結んだ線と平行に、クラブのシャフトを置いています。

・実際にパッティングする場合に、シャフトを置いて打つのは違反です。



1 2. まとめ

(1) これからパッティングするグリーンで、ボールからカップまでが、上りか、下りか、左下りか、右下がりかを、十分に観察しましょう。

(2) ボール位置からカップ方向を見て、傾斜方向、傾斜量を確認するだけではなく、カップと反対側からも、傾斜方向等を、必ず確認しましょう。

(3) 芝目、雨の影響等も考慮しましょう。

(4) 同伴プレーヤーのパッティングを穴のあくほど観察しましょう。

1 3. 次回は、「スライス・フック対策、力み、ため、連続素振り」について考えてみましょう。

* 私の説明についてご質問がある方は、弁ク事務局のメールアドレス (jimukyoku@benku.org) に、メールを送信して下さい。

出来る限りお答えします。ただ、場合によっては回答できないこともありますことをご了承ください。また、お読み下さった感想をお寄せ頂けると、とても参考になります。可能な限り次回以降に反映させたいと思います。

なお、メールを送信する場合、「ゴルフ上達の極意について」と書き添えて頂けると助かります。

以上